

峡東地域小中学校における農業体験実習等実施状況調査
報告書



令和3年3月

峡東地域世界農業遺産推進協議会

峡東地域小中学校における農業体験実習等実施状況調査報告書

1 目的

峡東地域世界農業遺産推進協議会では、世界農業遺産認定に向けた取り組みを進めており、現在、国際連合食糧農業機関（FAO）の現地調査の受け入れに向けた準備を進めています。

今後、地域の皆さんに世界農業遺産・日本農業遺産を理解していただく活動を推進していくこととしており、特に次代を担う子供たちが果樹農業を中心とした農業遺産を学ぶ機会を充実していきたいと考えています。

そのため、現在、各小中学校において取り組んでいる農業体験学習等の実施状況について確認し、今後の農業遺産の学習や果樹農業に関する体験の充実に向けた検討資料として活用することを目的に本調査を実施いたしました。

2 実施方法

峡東地域世界農業遺産推進協議会幹事会にて調査案を作成し、各市の教育委員会の了承を得て、教育委員会事務局職員が各小中学校の担当者にメールにて配布しました。

すべての小中学校から回答を得ました。（小学校数 35 校、中学校数 13 校）

配布 11 月下旬

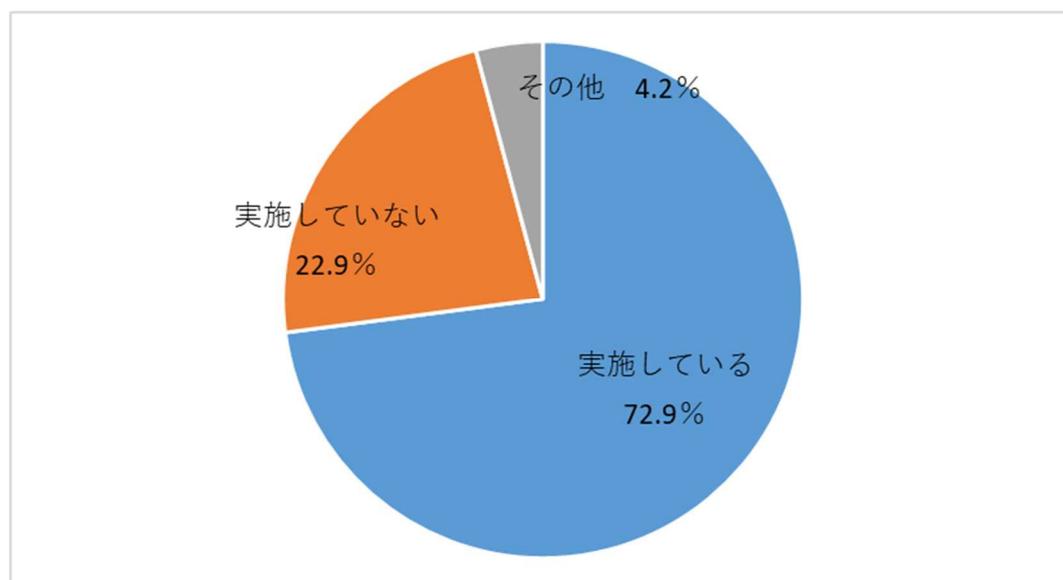
回答期日 12 月 18 日（金）

3 調査結果

2 ページ～24 ページ

問1 畑に出向いて実際に農業を体験するなどの「農業体験実習」を実施していますか。(1つ選択)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	実施している	35	72.9%
(2)	実施していない	11	22.9%
(3)	その他	2	4.2%
	計	48	100.0%

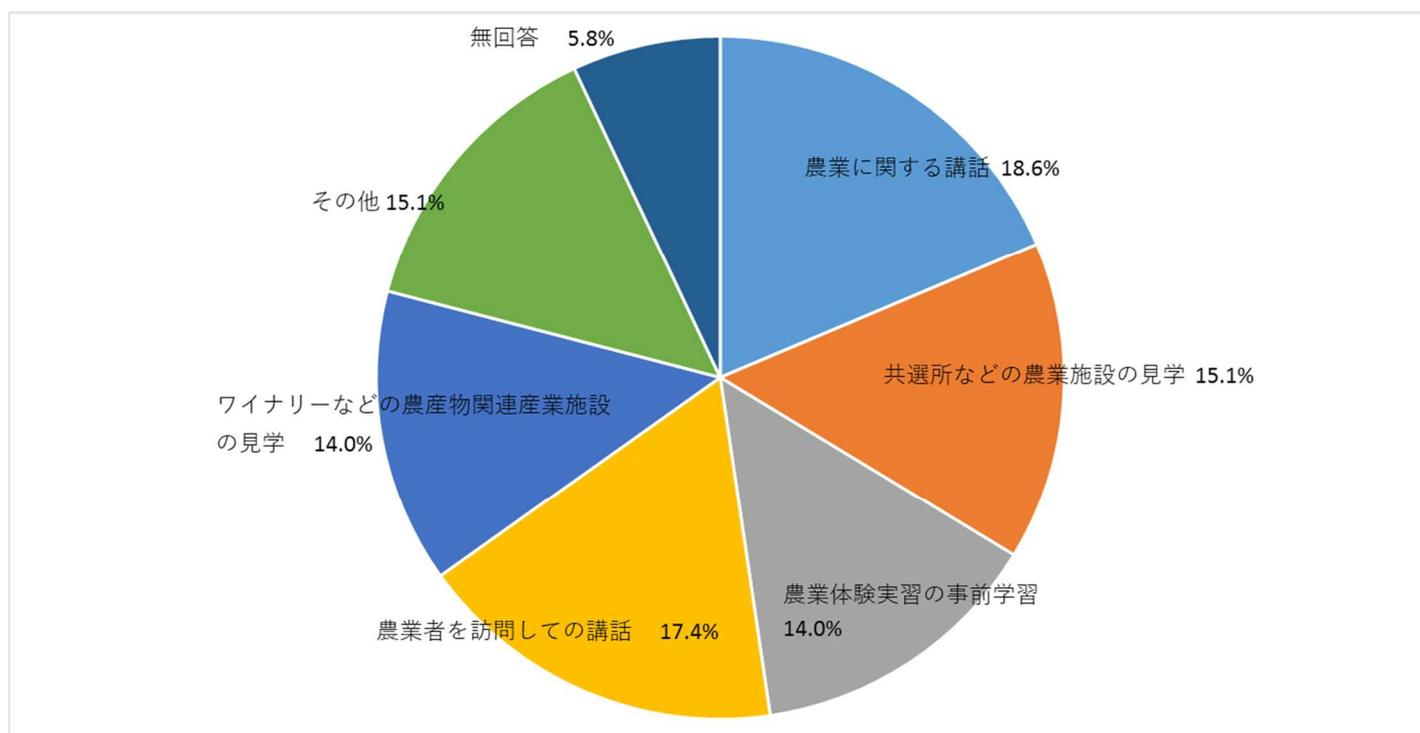


【解説】

- ・ 48校のうち、「実施している」が35校72.9%、「実施していない」が11校22.9%、その他が2校、4.2%となっている。
- ・ 小学校36校では、「実施している」が28校77.8%、「実施していない」が6校16.7%、「その他」が2校となっている。
- ・ 「その他」については、今年度コロナ禍の影響で中止したとのことから、実質的には「実施している」が30校83.3%、「実施していない」が6校16.7%となっている。
- ・ 中学校13校では、「実施している」が8校61.5%、「実施していない」が5校38.5%となっている。

問2 農業体験以外に「農業に関する講話や施設見学等」(以下「農業学習」という)を実施していますか。(複数回答可)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	農業に関する講話	16	18.6%
(2)	共選所などの農業施設の見学	13	15.1%
(3)	農業体験実習の事前学習	12	14.0%
(4)	農業者を訪問しての講話	15	17.4%
(5)	ワイナリーなどの農産物関連産業施設の見学	12	14.0%
(6)	その他	13	15.1%
	無回答	5	5.8%
	計	86	100.0%



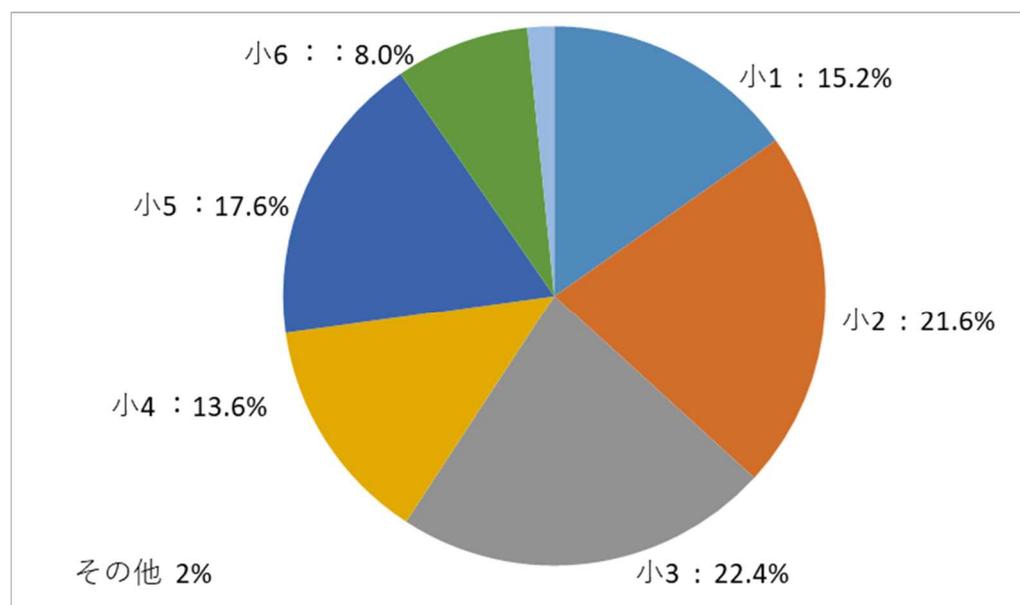
【解説】

- ・ 「農業に関する講話」が16校18.6%、「農業者を訪問しての講話」が15校17.4%、「共選所などの農業施設の見学」が13校15.1%、「農業体験実習の事前学習、ワイナリーなどの農産物関連産業施設の見学、その他」がそれぞれ12校14.0%となっている。
- ・ どの項目も平均的に実施されており、大きな差は見受けられない。
- ・ 「無回答」及び「実施していない」と記した小学校が3校、中学校が5校あった。
- ・ 中学校においては、「1項目実施しているが」5校、「3項目実施している」が1校となっている。

- ・ 小学校においては、「1項目実施している」が11校、「2項目実施している」が12校、「3項目実施している」が5校、「4項目・5項目実施している」が2校となっている。
- ・ 中学校より小学校の方が複数項目実施する傾向は高くなっている。

問3 農業体験実習や農業学習に取り組んでいる学年をお答えください。(小学校)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	小1	19	15.2%
(2)	小2	27	21.6%
(3)	小3	28	22.4%
(4)	小4	17	13.6%
(5)	小5	22	17.6%
(6)	小6	10	8.0%
	無回答	2	1.6%
	合計	125	100.0%

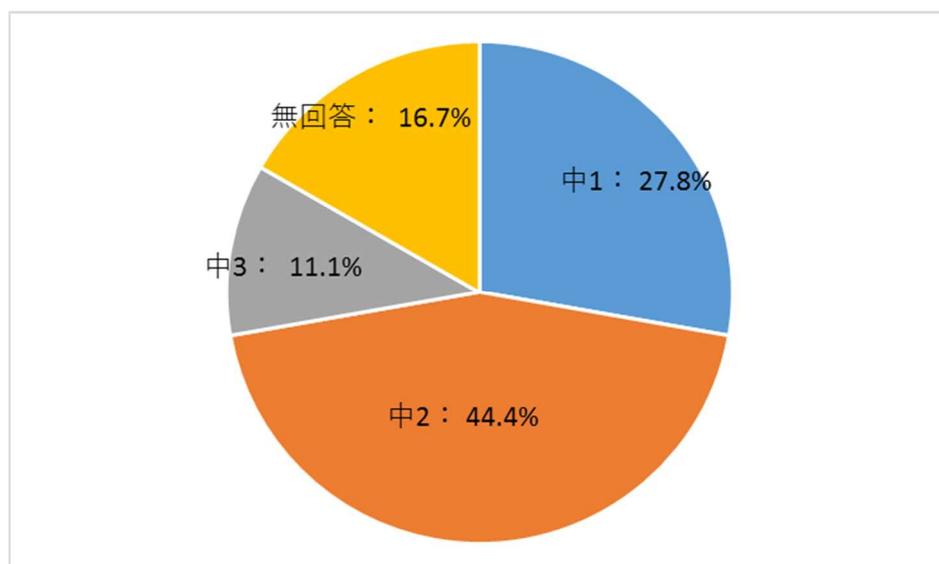


【解説】

- ・ 「小3」が28校22.4%、「小2」が27校21.6%、「小5」が22校17.6%。「小1」が19校15.2%、「小4」が17校13.6%、「小6」が10校8.0%、「無回答（未実施）」が2校1.6%となっている。
- ・ 35校中、複数の学年での実施については、「全学年で実施している」が9校25.7%、「2つの学年・3つの学年」がそれぞれ6校17.1%、「4つの学年」が5校、14.3%、「1つの学年」が4校11.4%、「5つの学年」が3校8.6%、「実施していない」が2校、5.7%となっている。

問3-2 農業体験実習や農業学習に取り組んでいる学年をお答えください。(中学校)

No.	選択肢	回答数	構成比
(7)	中1	5	27.8%
(8)	中2	8	44.4%
(9)	中3	2	11.1%
	無回答	3	16.7%
	計	18	100.0%

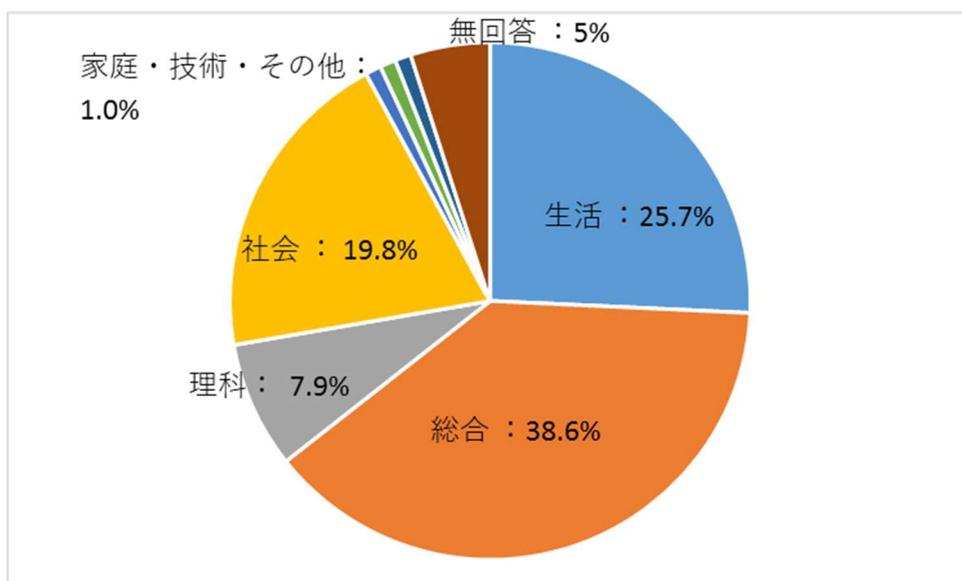


【解説】

- ・ 「中2」が8校44.4%、「中1」が5校27.8%、「中3」が2校11.1%、「無回答」(未実施)が3校16.7%となっている。
- ・ 13校中、複数の学年での実施については、「全学年で実施している」が2校15.4%、「2つの学年」が1校7.7%となっている。

問4 取り組んでいる時間枠をお答えください。(複数選択可)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	生活	26	25.7%
(2)	総合	39	38.6%
(3)	理科	8	7.9%
(4)	社会	20	19.8%
(5)	家庭	1	1.0%
(6)	技術	1	1.0%
(7)	その他	1	1.0%
	無回答	5	5.0%
	計	101	100.0%

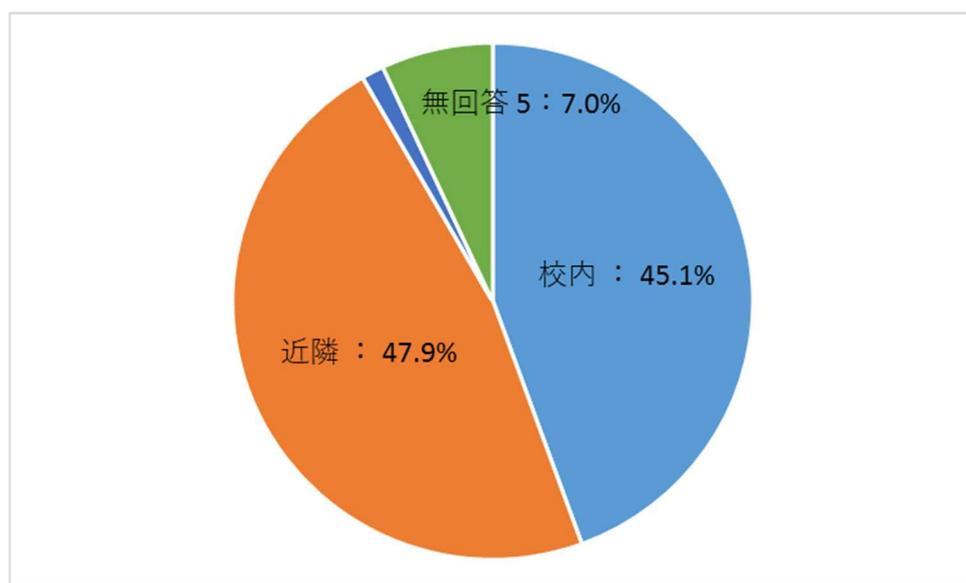


【解説】

- ・ 「総合」が39校38.6%と一番多く、次いで「生活」が26校25.7%、「社会」が20校19.8%、「理科」が8校7.9%となっている。「家庭・技術・その他」はそれぞれ1校1.0%となっている。
- ・ 48校中、「2科目で実施」が15校31.3%、と一番多く、次いで「1教科で実施」が11校22.9%、「3科目で実施」が10校20.8%、「4科目で実施」が5校10.4%、「5科目で実施」が1校2.1%、「無回答（未実施）」が5校10.4%となっている。

問5 農業体験実習や農業学習の場所についてお答えください。(複数選択可)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	校内	32	45.1%
(2)	近隣	34	47.9%
(3)	県内	0	0.0%
(4)	県外	0	0.0%
(5)	その他	1	1.0%
	無回答	5	7.0%
	計	71	100.0%

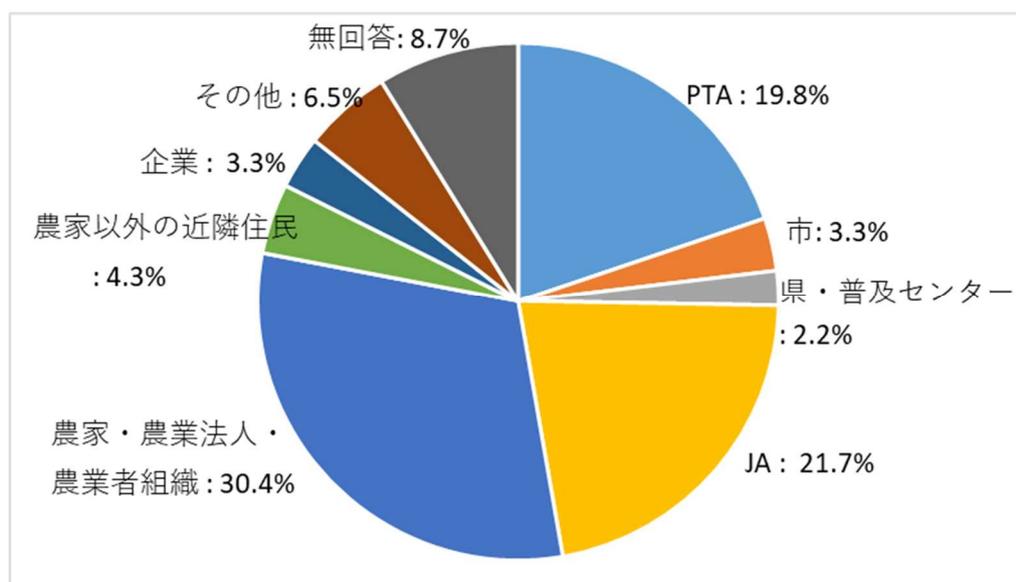


【解説】

- ・ 「校内」が32校45.1%と一番多く、次いで「近隣」が34校47.9%、と続いており、概ね学校及び学校の近くが学習の場となっている。

問6 農業体験実習や農業学習に当たり、支援協力してくれている組織を教えてください。(複数選択可)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	PTA	18	19.8%
(2)	市	3	3.3%
(3)	県・普及センター	2	2.2%
(4)	JA	20	22.0%
(5)	農家・農業法人・農業者組織	28	30.8%
(6)	農家以外の近隣住民	4	4.4%
(7)	企業	3	3.3%
(8)	その他	5	5.5%
	無回答	8	8.8%
	計	91	100.0%



【解説】

- ・ 「農家・農業法人・農業者組織」が28校30.8%と一番多く、「JA」が20校22%、「PTA」が18校19.8%と続いており、農業関係団体等の支援が過半数を占めている。

問7 農業体験実習や農業学習の具体的な取り組み内容を記述してください。

<p>4月下旬～5月連休前 耕作、肥料掛け。 縦割り班ごとに行う。運営は環境・美化委員会が行う。 5月中旬 畔作り 5月下旬 苗付け（サツマイモ） 6～7月 水やり、除草作業 9月下旬 芋掘り 10月下旬 焼き芋集会、サツマイモを全校で食べる</p>
<p>農業学習として地域のブドウ農家を訪ねた。ブドウ畑に行き、実際にブドウの実を見ながらブドウの歴史や品種、ブドウ作りの喜びと苦労について話をいただいた。ブドウのお土産もいただいたので、子供たちも喜んでいました。 ワイナリー見学では、地域のあるワイン工場を訪ねた。ワインづくりの作業工程や貯蔵方法を見学した。 これらの学習により、市の農業や産業についての理解を深めることができた。</p>
<p>今年度、2年生で予定していた職場体験学習が実施できなかったため、キャリア教育の一環として、教員OBで農業（花の栽培）を行っている方を招き、講演をしてもらった。農業の大変さだけでなく、働くことの意義等にもふれ、お話いただいた。</p>
<p>園芸事業者を訪問し、花の水やりや土の配合、ポットづくりなどを体験させていただく。</p>
<p>毎年11月上旬から下旬にかけ2年生が、キャリア教育の一環として、JAより斡旋していただいた農家で枯露柿づくり（柿の収穫と皮むき）などの体験活動をさせていただいています。</p>
<p>2年生生活科 サツマイモづくり（JA協力） 3年生社会科 ワイン造りの仕事</p>
<p>全校で近くの学校園に行き、さつまいもの苗を植え、草取り、収穫をしている。 1年：あさがお 2年：トマト、キュウリ、大豆 3年：ハウセンカひまわり、4年：へちま 5年：ミニトマト、インゲン豆、6年ジャガイモ 緑のカーテンの実施、琉球アサガオ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに畑を設け、それぞれに種をまきながら収穫まで体験し、収穫後は調理して食べることに、食育の一環として取り組んでいる。 ・近隣のブドウ農家を訪問し、社会科の学習で学んだことを、直接農家の方の話を聞いたり、作業の様子を見たりすることで、理解を深めている。 ・地域の産業であるワイン工場を訪問し、社会科の学習で学んだことを、直接工場の方の話を聞いたり、作業の様子を見たりすることで、理解を深めている。
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生が地域の特産物である桃の栽培に取り組んでいる。 ・学校にある桃の木で栽培を行っている。児童の作業は、主に摘果、袋かけ、収穫を体験している。 ・農業に従事しているPTAの方に栽培の指導や樹の管理（消毒・剪定等）をしていただいている。

<p>【1年生の生活科】ポップコーンになるトウモロコシを学校園で育てる。</p> <p>【2年生の生活科・特別支援学級の生活単元学習・自立活動】学校園で、キュウリ、ミニトマト、モロコシ等を育てる。</p> <p>【3年生の総合的な学習】ころ柿づくりについて、JAの方から話を聞いたり、調べ学習を行ったりし、実際に柿もぎから、ころ柿づくりについてすべての過程の体験学習をする。</p> <p>【4～6年生】ころ柿集会の中で柿むきを行い、ベランダに干し、学年ごとにくろ柿づくりを行う。</p>
<p>【2年生】野菜の育て方を調べ、学校園を利用し種まきから収穫までの農業体験を行っている。</p> <p>【1～2年生】ヤギを飼いながら柿を育てている農家を訪ね、ヤギの役割や世話の仕方を話していただいたり、実際にヤギに触ったりする体験をしている。</p> <p>【5年生】地域の特産であるころ柿の調べ学習や実際に柿をむいて「ころ柿」を作る体験をしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・全校児童による、児童会活動、ジャガイモ、サツマイモの栽培 ・2年 生活科での野菜栽培 ・2年 生活科での校区探検における農家訪問 ・3年 社会科での農協見学 ・3年 社会科でのワイナリー見学 ・4～5年 総合でのJA教室
<p>2年生：野菜作り</p> <p>1年生から6年生：さつまいも、大根、白菜づくり→11月のイベントで提供（現在は終了）</p> <p>5年生：バケツ苗づくり</p>
<p>・「農業体験学習（ジベ処理実習）」 2年生（例年、5月上旬～中旬に実施）</p> <p>この活動はすでに50年の歴史をもつものである。毎年、多くの報道機関から取材を受け、県内での認知度も高い活動である。勝沼の基幹産業であるぶどう栽培、中でも「デラウェア種」の栽培は、長年に渡りその中心であった。しかし、種なしぶどうにするための「ジベレリン処理」は一房ずつを手作業で、しかも限られた期間の中で行わなければならない。そのジベレリン処理を中学生が行うのが「ジベ実習」である。ジベ実習が始まった当初は「援農」的な意味合いもあり、全校生徒が参加して5日間行われていた時期もあった。近年はデラウェアの栽培が減少してきたため、2学年の生徒のみが参加し、日数も2日間（午前中のみ）となっている。</p> <p>事前学習として、毎年、県農務事務所の方を講師とし、生徒に講義を行っていただいている。また、体験を行う農家は、保護者（PTA）とJAから地域に周知していただき募集を行っている。</p> <p>・「職場体験学習」 2年生（例年、11月上旬に実施）</p> <p>本校では2年生で2日間、職場体験学習を実施している。その中で、地域のワイン関連企業の方に協力をいただいている。学校からの直接の依頼、保護者の職場などを紹介していただき、体験先を決定している。</p> <p>・「地域学習・職業講話」 2年生（今年度10月の実施。コロナ禍による職場体験学習の代替行事）</p> <p>地域学習として、ワイン関連施設の訪問を行った。また、職業講話として、農業を営む保護者の方を講師として招き、実際にブドウ栽培についての講義を行っていただいた。</p>

- ・2年生の生活科において、学校農園で春・夏はオクラやピーマンなどを、秋・冬にはブロッコリーやキャベツなどの野菜を中心に栽培・収穫を行っている。
- ・3年生の総合的な学習において、地域で盛んなぶどう・ワイン栽培について講師を招きぶどう栽培やワイン作りにおける苦労や工夫などについて学習している。
- ・4年生の社会科・総合的な学習において、ぶどう畑やワイン工場に出向き、現地見学やそこで働く人たちからの話を聞き、地域で受け継がれてきた農業・産業・歴史の学習を行っている。

- 〈1年生〉生活科：学校農園でのサツマイモの栽培
- 〈2年生〉生活科：学校農園での野菜づくり 鉢を使ってミニトマトの栽培 サツマイモの栽培
- 〈3年生〉社会科 総合：学校隣のぶどう畑で農家の方の協力を得て、房づくり、ジベ処理、かさかけ、収穫体験
- 〈4年生〉理科：学校農園でのヘチマ栽培
- 〈5年生〉社会科 総合 家庭科：稲作の学習と並行してバケツで水稻栽培
- 〈6年生〉理科：学校農園でのジャガイモの栽培・収穫

- ・1年生と2年生が生活科で、野菜作りを行った。(ポップコーンもろこし、きゅうり、なす、ミニトマト)
- ・2年生が生活科(まちたんけん)で、地域のワイナリーに訪問する予定であった。(今年度は、コロナのため中止)
- ・3年生が総合で、ぶどう栽培を行った。保護者や地域の農家の方の支援の下、かさかけや収穫を行った。
- ・3年生が総合で、野菜作りを行った。(ほうれん草)
- ・3年生が総合で、地域のワイナリーを見学する予定であった。(今年度は、コロナのため中止)
- ・4年生がJA食農教室で、農業に関する講話を聞いた。
- ・5年生が社会と総合で、稲作を校庭の水田で行う予定であった。(今年度はコロナのため中止)

- 2年生活科：野菜栽培
- 3年総合：ぶどうづくり体験(ジベレリン処理体験、傘かけ体験)
- 3年社会科：共撰所見学
- 3年社会科：ワイン醸造所見学

今年度は、桃の栽培方法について子どもたちの調べ学習において出た質問・意見等に回答していただき、モモの生育過程を学んだ。

例年は、若手農家の方々に学校に来てもらい、農業生産における願いや課題、地区内の生産物等をプレゼンしていただいている。また、実際に畑に児童が出向き、農作業の様子や使用している農業機械や機具をみせてもらい、農家の方々の苦労も感じている。

5年生の社会科で、農業（米作りや水産業）の学習をするため、その発展として総合的な学習の時間でバケツ稲づくりの学習をしている。（いつもは、児童一人でバケツ稲を育てるが、今年度はコロナの影響で時期がずれたため、グループでの栽培とした。）

2年生の生活科で、野菜の育て方や工夫を調べグループや個々に野菜を育て、植物には命があり大切にすることを育てる。グループではポップコーンやキュウリ、児童一人ひとりではミニトマトや、ニンジン・カブ・ダイコンなどの夏野菜や冬野菜を育てた。

（生活科の学習の地域探検で、後屋敷地区の農家の見学も予定していたが、コロナ影響のため実施できなかった。）

3年生以外は、敷地内にある学校農園にて体験学習を実施している。

2年生はサツマイモの栽培、3年生は年に2回、地元の農業者グループにご指導をいただき、1回目は本県の特産物であるぶどうや桃の栽培方法、品種の学習などを現地（近隣）で学び、2回目は学校にて、食育を兼ねて、様々な品種を試食する授業を実施している。4年生はへちまの栽培、5年生は稲の栽培を実施している。6年生はジャガイモの栽培を行っているが、教科横断的な学習の取組として、理科の実験教材として有効活用している。

2年生：生活科において、近くの農家のご厚意で毎年「サツマイモ掘り」の収穫をさせていただいている。収穫したサツマイモは、児童が持ち帰ったり、焼き芋にしたりして食べている。（今年は収穫体験のみで、焼き芋はせず、お土産にして持ち帰った。）

3年生：社会科の授業において、近くの農家のご厚意で「葡萄作りの体験」をさせていただいている。傘かけや収穫、試食を毎年させていただいている。（今年度はコロナの影響で未実施）

5年生：総合の授業において、JA主催のもと、「野菜教室」を実施した。

教室において、JA職員の方が資料や野菜の詰め合わせを使い、野菜作りの現状や地産地消の大切さを指導してくださった。

・地区の農家から借りている畑で、各学年で作物を決めて栽培する。理科や生活科で使う物がある場合はそれを中心に行う。

・5年生が社会の米作りの学習の一環で、地域の方の指導の下、その方の田んぼで田植えと稲刈りの体験をさせていただいている。

・市内のワイナリーの見学を行っている。

（いずれの取り組みも今年度は新型コロナウイルス感染症の関係で実施していません）

・3年生の保護者に果樹農家がいるとき、その畑や作業の様子を見学させてもらい、説明もしていただく。（今年度もコロナ対策をしながら実施しました。）

<p>○2学年 生活科「発見！町へとび出そう」の学習で、自分たちが住んでいる町の様子を観察したり、農家の方にインタビューしたりする活動を通して、地域の特産物について知り、地域への関心・愛着を深めた。</p> <p>○3学年 社会科「はたらく人とわたしたちの暮らし」の学習で農家の仕事について、工夫や苦勞、喜びなどについてインタビューし学習を深めた。また、共選所では、JAの職員より出荷された果物がどこに運ばれるか、年間でどのくらいの量が出荷されるのかなどについて説明をしてもらい学習を深めた。</p> <p>○3学年 総合的な学習の時間「岩手地区の特産物を知ろう」の学習で、社会で学んだことをまとめた。</p>
<p>技術科の時間 「栽培」の分野において野菜作りをしている。ミニトマト・ナス・ゴーヤなど</p>
<p>特別支援クラスの自然と科学の分野、自立の時間に農業実習をしています。生命に対する畏敬の念や収穫の喜び、自然科学について学んでいます。美化委員会の活動において、花の種や株を植え、水やりをして花を育てています。また昨年度は技術科においては、緑のカーテンづくりでゴーヤのカーテンをつくって環境教育を学びました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地域のぶどう栽培の歴史を学ぶ（講師の講話中心） ・ぶどう袋かけ実習 ・ぶどう収穫実習 ・耕作放棄地での大豆栽培実習 ・地産地消について（講師の講話中心）
<p>○地域の特産物である「こんにやくいも」の栽培と収穫</p> <p>1学期に全校でこんにやくいもと今年はさつまいもを植えて育ててきた。</p> <p>2学期に収穫して、「ほかほか祭」の学習発表の一部として、こんにやくを各家庭等のグループで作成した。</p> <p>※さつまいもは、炭づくりの熱を利用して焼き芋として食した。</p>
<p>1年・・・さつまいもの栽培（生活科）</p> <p>2年・・・とうもろこしの栽培（生活科）</p> <p>3年・・・桃の栽培についての学習（総合的な学習の時間）</p>
<p>低学年は校内の農園にて、生活科の時間を使ってさつまいもやポップコーン作りを行っている。</p> <p>3学年は、農園にて、理科の時間を使ってピーマンやオクラ作りを行い、総合の時間や社会科の時間で地域の方をゲストティーチャーとして桃やブドウ作りについて実際に畑に行き行って体験学習をさせてもらっている。また干し柿づくりも指導していただいている。</p> <p>さらに地域のワイナリーにいき工場見学を行っている。</p> <p>4学年は、農園にて理科の時間を使いへちまやキュウリ作りを行っている。</p> <p>5学年は、農園にて理科の時間を使いインゲン豆やへちま作りを行っている。</p> <p>6年生は、農園にて理科や総合の時間を使ってジャガイモづくりをしている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモ、葉物野菜、すいか、トマト、なす、キュウリ、ヘチマ、ジャガイモ等の栽培 ・ブドウ農家の方の協力によるブドウ栽培作業体験 ・共選所,ワイナリーの見学 ・米づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・共選所の見学（3年生社会） ・直売所の見学（3年生社会）
<p>・農協の協力のもと、近くの共選所に出向き、桃やぶどうの出荷について話を聞いたり、見学をさせてもらったりした。</p> <p>・今年は規模を縮小したが、学校近くの畑を借りて、学年で野菜作りを行っている。</p>
<p>中学校 1 年生の総合学習におけるキャリア教育として、地域の農家の方々に協力していただき、農業体験を実施している。残念ながら本年度は実施できなかった。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2 年生は学級で借りている畑に農家の方の指導を受けながらさつまいもの稲を植え、収穫までお世話をする。 ・ 1 年生は生活科の学習で朝顔を育てる。 ・ 2 年生は生活科の学習でミニトマトを育て、収穫する。 ・ 3 年生が J A の共選所へぶどうや桃の収穫期に見学に行く。また理科の学習ではひまわりやハウセンカを育て、観察をする。 ・ 4 年生では理科の学習でヘチマ、ゴーヤを育て、観察をし、収穫する。 ・ 5 年生では理科の学習ではインゲン豆（つるなし）を育て、観察をする。また社会科の学習でバケツに種もみをまき、稲として収穫する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲作体験 田植えの体験を、5 年生が、近所の田んぼで実際に植える。 刈り取りの体験を、鎌で行う。脱穀の体験を行う。 ・ 野菜教室 山梨県の野菜の特徴や野菜作りの特徴を教えた。頂いた。 農業の大切さ、喜び、野菜を食べることの大切さなどを教えた。頂いた。 JA より、野菜のセットを 5 年生一人ずついただいた。
<p>以前は、校外学習で市内のワイナリー工場の見学などもおこなっていた。（H30 年度まで）今は、広い意味で郷土学習としておこなっている。調べ学習として個々に学習することはあるかもしれないが、特に農業に絞って学習する機会は全体としてはしていない。</p> <p>また、今年はコロナの影響のために実施できなかった職場体験学習で、農業体験をおこなう生徒もいる。</p>

<p>2年（生活科）・・・サツマイモ・ナス・ピーマン・ミニトマト・スイカ・きゅうり等 農家の方を講師にお招きし、苗の植え方・育て方を畑にて直接ご指導いただいている。</p> <p>特別支援学級（自立）・・・サツマイモ・ミニトマト・スイカ・きゅうり</p> <p>5年（社会・総合）・・・地域の農家の方の水田において、田植え体験・稲刈り・脱穀等の体験学習をさせていただいている。体験学習は、地域の農家の方々はじめ、JAの方々にも来ていただきご指導いただいている。</p>
<p>・キャリア教育の一環として、2年生で職業講話・職業体験をする際に、農業体験や農業教育を行う場合がある。生徒の希望に応じた職種を対象にするため、毎年農業体験や農業学習を行うとは限らないが、地域の特色からも、農業関連はなるべく扱うようにしている。</p> <p>・社会科の地理的分野において農業を扱う際に、峡東地域の農業について積極的に取り扱うようにしている。</p>
<p>・地域の農家の方による稲作の実技指導（5年生総合的な学習の時間）</p> <p>※いきいき教育地域人材活用推進事業</p> <p>・学校に隣接する共選所の見学（2年生活科町探検）</p>
<p>【1年生】生活科の落花生づくり</p> <p>【2年生】生活科による野菜づくり（なす、ズッキーニ、トマト、ピーマン、きゅうり、もろこし、にんじん、落花生）</p> <p>【3年生】総合による枝豆づくり</p>
<p>2年生…生活科で野菜づくり（ミニトマト、キュウリ、オクラなど）</p> <p>3年生…総合・社会で地域めぐり（市の桃・ブドウの生産について）</p> <p>4年生…社会で県の農業について学ぶ</p> <p>5年生…社会科で日本の米作り・農業生産について学ぶ</p>
<p>※教室前の畑で、サツマイモを育てたり、チューリップの球根を植えたりしている。</p> <p>（1年）</p> <p>※野菜作り【キュウリ・ナス・ミニトマト・ピーマン・オクラ・もろこし・ポップコーン・大根】（2年）</p> <p>※ブドウの傘かけ・収穫・調理</p> <p>※農家の方を招いてブドウ作りモモ作りについての講話をさせていただいている。（3年）</p> <p>※米作り【もみ種まき・田植え・稲刈り】（5年）</p>
<p>2年（生活科）・・・ミニトマト・トウモロコシの栽培</p> <p>3年（総合）・・・サツマイモの栽培</p> <p>4年（理科）・・・ジャガイモの栽培</p> <p>5年（社会・総合）・・・バケツを使って「バケツ苗」の育成体験学習</p>

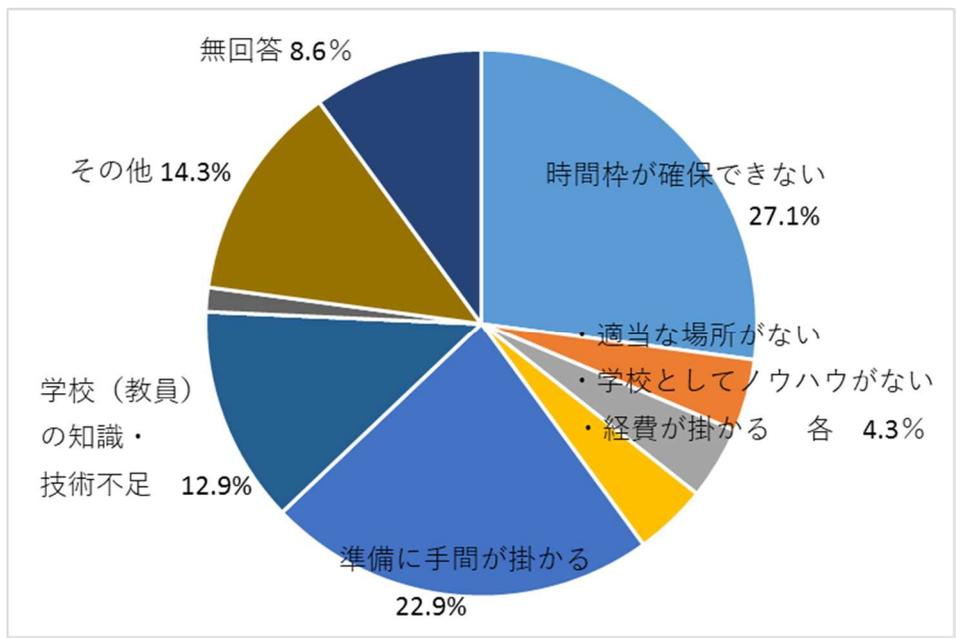
<p>【解説】</p> <p>・野菜に関することが 29 校と一番多く、次いでブドウに関することが 15 校、ワインに関することが 11 校、米に関することが 9 校、モモに関することが 8 校、共選所等の施設訪問が 6 校、キャリア教</p>
--

育4校、農家訪問8となっている。

- ・また、ブドウやモモ、ワイン以外の地域の農産物を活用した特産品について学ぶ学校もあり、ころ柿が3校、こんにゃくが1校となっている。

問8 農業体験実習や農業学習を行う上での課題又は実施していない理由を教えてください。(複数回答可)

No.	選択肢	構成比	回答数
(1)	時間枠が確保できない	19	27.1%
(2)	適当な場所がない	3	4.3%
(3)	学校としてノウハウがない	3	4.3%
(4)	経費が掛かる	3	4.3%
(5)	準備に手間が掛かる	16	22.9%
(6)	学習効果が不明である	0	0.0%
(7)	学校（教員）の知識・技術不足	9	12.9%
(8)	外部の指導・協力が得られない	0	0.0%
(9)	1次産業以外の職業体験を実施している	1	1.4%
(10)	その他	10	14.3%
	無回答	6	8.6%
	計	70	100.0%

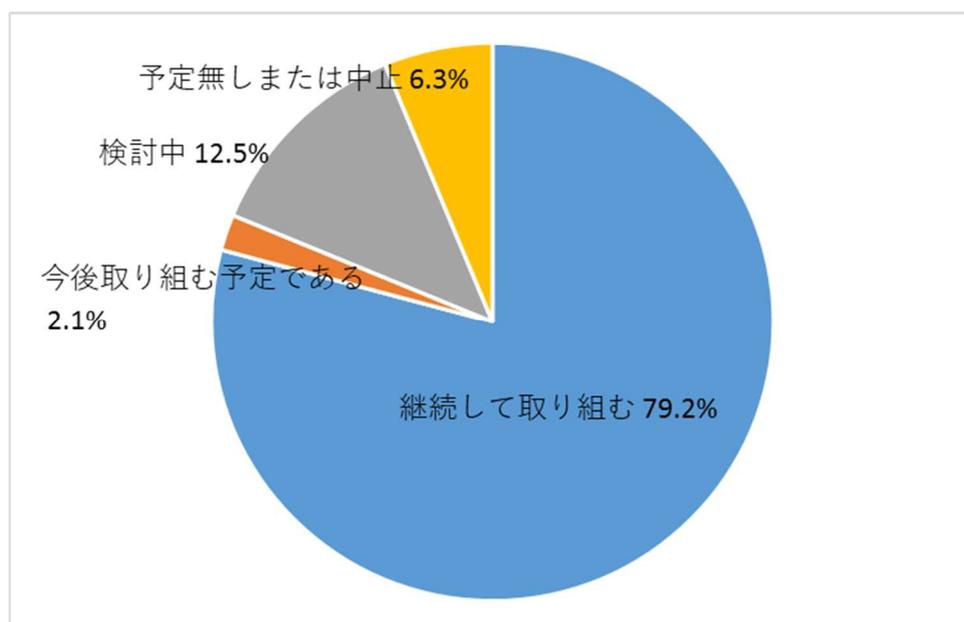


【解説】

- ・ 「時間枠が確保できないが」一番多く 19 校 27.1%となっている。次いで「準備に手間が掛かる」が 16 校 22.9%、「学校（教員）の知識・技術不足」が 9 校 12.9%と続いており、3つの回答で 62.9%となっている。
- ・ 「適当な場所がない」「学校としてノウハウがない」「経費が掛かる」がそれぞれ 3 校で 4.3%となっている。

問9 今後の農業体験実習や農業学習の取り組み予定を教えてください。(1つ選択)

No.	選択肢	回答数	構成比
(1)	継続して取り組む	38	79.2%
(2)	今後取り組む予定である	1	2.1%
(3)	検討中	6	12.5%
(4)	予定無しまたは中止	3	6.3%
	その他	0	0.0%
	計	48	100.0%

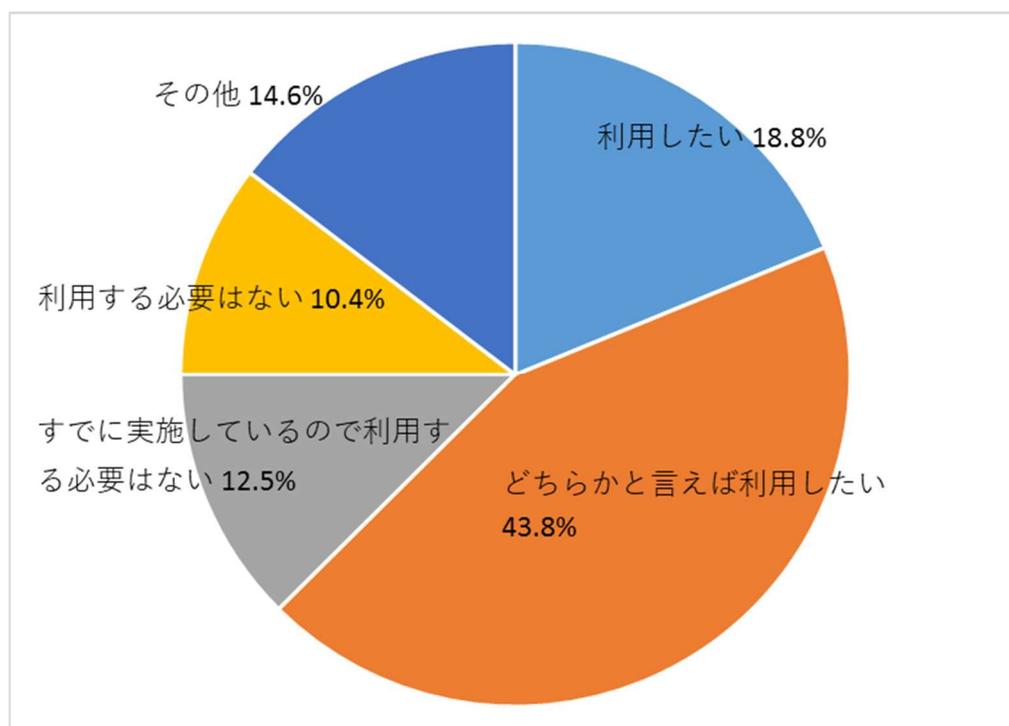


【解説】

- ・ 「継続して取り組む」が38校79.2%と一番多く、「今後取り組む予定である」が1校2.1%で「取り組む」を選択した学校は、39校81.3%となっている。
- ・ 一方、「検討中」が6校12.5%、「予定無しまたは中止」が3校6.3%となっている。

問 10 峡東地域世界農業遺産推進協議会では、農業遺産に関連する農業体験実習や農業学習の実施に際し、講師を派遣するなどの支援を行うことを検討しています。こうした支援制度を利用したいと思いますか。(1つ選択)

N.	選択肢	回答数	構成比
(1)	利用したい	9	18.8%
(2)	どちらかと言えば利用したい	21	43.8%
(3)	すでに実施しているので利用する必要はない	6	12.5%
(4)	利用する必要はない	5	10.4%
(5)	その他	7	14.6%
	無回答	0	0.0%
	計	48	100.0%



【解説】

- ・「どちらかと言えば利用したい」が 21 校 43.8%と一番多く、次いで「利用したい」が 9 校 18.8%、その他が 7 校 14.6%となっている。
- ・一方、「すでに実施しているので利用する必要はない」が 6 校 12.5%、「利用する必要はない」が 5 校 10.4%となっている。
- ・その他の意見では、「検討していく」との意見も多く見られた。
- ・

自由記述欄

地域の特産でもある枯露柿作り体験を2学年で毎年行っています。JAの方に斡旋していただき、生徒たちは地域の生産者のところに出向き、枯露柿作りを体験させていただいております。キャリア教育の一環で行っていますが、地域の方々ともふれあうという面でも、生徒たちにとっては、とても大切な機会となっています。

伝統行事なので、2年生になってから行くのだ、という自覚を持って行えています。今後も続けていきたいと考えています。

学校が忙しく、なかなかこのような体験ができませんが、農業はこれから発展性のある職業であり、担い手が必要になってくると思われることから、できればもう少し時間を取って体験させ、農業のすばらしさなどを体験させたいと考えています。

今後ますます体験的な学習の充実が大切になると思われる。子供たちに原体験としての農業体験をどうにかして仕組みたいものである。

米を育てたい。土にふれあって、収穫の喜びを感じさせたい。

学校に在籍している児童の家庭では、地域の特産物である桃の栽培を行っていない家庭も多く、農業体験実習を通じて地場産業を知り、地域に誇りを持つことにつながるので、これからも継続していくことが大切だと思う。

・学習の目的を明確にし、担任が世話をできる範囲で、計画的に見直しをもって取り組むことが重要。野菜の世話など、パーフェクトに行おうとすると他教科への学習にしわ寄せがくる。

人間は食べ物を食べないと生きていけません。その視点で考えると、生きていく以上何らかの形で農業と関わって生きています。

だとすると、農業体験や農業学習を通して、農家の人の思いや苦勞、農作物ができるまでの流れ、自分たちに届くまでなどについて知っていることで、将来、同じものを食べ、同じものを使ったとしても、感じ考える幅が違ってくると思っています。

本校にとって農業体験学習「ジベ処理実習」は、学校の柱的な取組になっており、既に方法が確立されている。これを続けていくことは大きな使命であるとも感じている。

令和元年度よりコミュニティ・スクールとなり、地域に根差した活動のいっそうの充実を図っている。単に行事としてではなく、生徒たちにしっかりとした学びの場としての位置づけをさらに進めている。特に、ここ数年は、活動を通して「地域を愛し、地域に誇りをもつ」生徒を育てていくという目標を意識して行うことを考えて実施している。その意味合いで、従来の方法を続けるだけでなく「新たな価値の付与」や「新たな方法の検討」も必要と考える。特にデラウェア種の栽培農家は減少傾向にあり、具体的な検討を行う時期になっていると感じている。

今後、本校の取り組み・教育活動にとって、有益となる情報・取り組みがあれば、ご協力を願いたいと考えている。

・農業体験実習は、今の子供達の経験不足を補う上で実体験を伴う活動として大変重要であると考えます。また、実際に活動を行うと子供達は大変意欲的に活動していました。継続的な植物の世話を通しての忍耐力や植物の生長に対する感動、収穫の喜びなど、机上では得られない貴重な体験が得られる、教育上有意義な活動と考えます。

・農業学習は、講話を通して、子供達が農業や産業に携わる人々の苦労や喜びを知ったり実際の施設見学を通して、施設の大きさや工夫などを学習したりできる学習であり、子供達が知っている知識を農業学習を通して体系的に学んだり、学びを深める学習と考えます。

・農業遺産の学習は、保護者にぶどう専業農家が多く、また、地域学習教材に利用できる歴史や文化・農業産業が多く残る本地区にとって農業遺産の学習は大切と考えます。実際に本校では、総合的な学習の中で、3年生「地域探検隊」4年生「いろいろな仕事の秘密をさぐろう」5年生「共同産業探検隊」6年生「山梨郷土史探検隊」を教育課程に位置づけ学習を進めています。

・農家の協力を得ての、ぶどうづくり体験は毎年、児童が興味を持って取り組んでいる。本校はぶどう栽培が盛んな地域にあるので、今後も続けられる限り行っていきたい。また今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、共選所の見学ができなかったが、来年度は実施できるように計画しておきたい。

・農業体験実習に使用する農具や土肥料など予算がかかる。限られた学校予算の中で工面している。

当地区は、ぶどう産業をはじめ、農業に携わる方が多い地域です。本校では、コミュニティ・スクールの取組として、地域の方々にご協力いただき、ぶどう産業等に関わる体験学習を5年ほど前から行っています。今回回答した学習以外にも、地域の林業関係団体の方々にご協力いただき、5・6年生が植樹作業（林業体験学習）に取り組んでいます。

ただ、5年社会科の米作の学習に関わっては、地域に米作農家がほとんどなく、支援していただける方が見つからないこともあり、米作り体験に取り組めていない現状があります。米作りに関わって、支援していただける方がいればたいへんありがたいと思っています。

地域コミュニティが学校教育にたいへん協力的で、講師をお願いしている方々はみなさん子供たちに意欲的にかかわっていただいております、とても有意義な学習が進められています。地域の方々にご協力いただいた学びの成果を、秋の「文化祭」で保護者や地域に発信しています。

これからも地域の方々にご理解を賜り、ご協力をいただくことによって、有意義な地域学習を進めるとともに、子どもたちの地域への愛着がふくらむようにしていきたいと考えています。

農業体験を行うには、学校に近い場所に畑があり、農業に熟知しており、子どもに対して話すノウハウがある方が指導に入っただけだと、大変ありがたいです。現在、本校で行っているものは、見学が中心になっているので、実際に体験させていただくことで、子どもの学びや学習の意欲が深まると思います。

ただし、アレルギーの問題もあり、児童全員が同じようにできないことも課題です。

現在の学校教育では、地域の特色を学ぶことが重要視されています。峡東地域3市が世界農業遺産に認定されたことを受けて、農業体験や農業学習は、この地域に暮らす児童にとっては貴重な機会となります。農業行政の専門的な立場から学習支援をしていただけるのはとてもありがたいです。来年度以降の教育課程を考えるうえで、検討したいと思います。

本校では、学校園（畑）の面積が狭く、その中で教育課程にあった野菜作りをしていくのは大変なところがある。また、上記のように先生方でも実際に野菜を育てるために準備をすること（土を耕す、畝を作る、マルチ・ネットなどの設置、野菜の管理など）をあまり知らない先生もいる。狭い畑でも、たくさんの野菜を育て、収穫できるための工夫や技術等を、先生や子供たちに教えていただければ、今まで以上に主体的に農業学習に取り組むことができると感じる。

体験的に学習を進めていくことは、学習効果を高めるために有効な手段の一つである。また、近隣の農家の方々と一緒に作業をしていくことで、地域の方々との連携も深まり、児童が自分たちの住んでいる地域の特色を知るとともに地域を大切にする気持ちを育てる良い機会となる。本校では今後も実施していきたいと考えているが、新型コロナウイルス感染症のために様々な制約がかかり、これまで通りの実施とはいかないことが想定される。計画の大幅な見直しも視野に入れていかなければならない。

・ 峡東地域が日本農業遺産に認定されていることも踏まえて、子どもたちにふるさとに愛着と誇りをもつためにも農業に触れることや農業、農業遺産について学ぶことは必要だと思えます。

学習指導要領を踏まえつくられた教育課程において、普通学級においては農業体験等の授業を実施する時間は生み出せず、実施は難しい状況です。ただし、農業体験は心の成長には欠かせないものだと考えます。道徳の授業、学活の時間、理科の授業、技術科の授業、あるいは生徒会活動、委員会の活動などで工夫することにより実施もできると理解しますので、農業に関する授業導入を模索していきたいと思えます。また講師の先生も派遣できるようですので、そちらも検討していきたいと思えます。

○本校は小規模校として様々な体験活動を取り入れて、学習を進めている。自然の中で、いろいろなものを育て収穫し、その後食する状態まで加工する一貫した指導を、継続して実施してきている。そこから、児童たちが学ぶものは大変多く、作業の手順はもとより食のありがたみ等の食育の面、地域の産業の面等からも、地元を愛する児童の育成には欠かせないものとなっている。上述にもあるように、職員の入れ替わりが多いことから

- ・ どうした手順で進めていくかわかっている職員がいない場合がある。
- ・ 様々な道具等の準備に時間がかかる。

教育課程（学校の学習計画）に取り入れるならば、具体的な内容を前年度のうちに知り、教育課程に位置づけていく必要がある。よって、前年度の早い段階で具体的な内容を教えてもらわないと実習や学習の実施につながらないと思う。

本校では、地域として有名な桃やぶどうを作って、生計を立てている家庭も数多く存在する。又、核家族化が進む中でも2世帯が同居(又は、同じ敷地内)している家庭も珍しくない。そんな家庭環境の中、生徒達も家庭や地域での農業を目にする機会もたくさんある。

このような次の世代を担う生徒達にとっても、将来的には、専業と言えなくても、農業に携わる機会が出てくると思われる。そんな点を考えると、農業体験や農業学習も取り入れて行く必要があると考えられます。

体験することはとても大切である。基盤産業としての農業を児童にどのように触れさせていくのか必要であると思う。時間・場所・費用・講師などが課題として挙げられるが、本校は地域の協力や理解があって比較的うまく取り組んでいる。しかし、すべてがうまくいっているわけでもないのので、峡東地域世界農業遺産推進協議会の支援もとても興味深い。

・以前に比べると農業に従事する方は減少し、近くに畑はあっても農業への関りが薄くなっている現状がある。教育課程上、限られた時間ではあるが、地域にある教材や人材を活用して農業の大切さについて改めて触れていきたいと考えている。

中学校3年間のキャリア教育の一環として有効であると考えている。

収穫の喜びは、何物にも代えがたい喜びであることが児童の様子や行動に表れている。自分たちで収穫したお米では、玄米で炊いた時も、おいしいという感想があった。また、作業の大変さを通じて、食べ物を無駄にしない、という意識が芽生えた。これからも、近所の農家の方と協力しながら、コメ作りの体験をぜひ続けていきたい。農家の方は、体験学習を小学生にしてもらいたいという願いがあるから、田んぼを残していると話されていた。

笛吹市の特徴である果実をはじめとする農業産業は、広く世の中にアピールできるものであります。笛吹市に住む生徒が自分の住む場所に誇りを持ち、将来の発展の担い手となるように育てていくことは、同じ笛吹市に住むものとしても我々の責務でもあると思います。ただ、学校教育の教育課程に位置づけて実施すべき教育活動が数多くある中で、限られた時間の中で農業教育だけに重点的に取り組むのは難しいかもしれません。郷土学習のひとつとして幅を持たせる中で取り組んだり、キャリア教育としての調べ学習等、選択して学んでいくことは十分可能だと思います。

農業は重要な基幹産業であり、峡東地域の児童生徒にとって地域の産業や文化を守る態度を養うことは大切であり、喫緊の課題だと思う。しかし、様々な学習が求められる中で、農業体験実習、農業学習、農業遺産の学習時間を確保するのが難しい。

・子どもたちが土に触れる体験が少なくなっている。お米や野菜の栽培活動を通して、自他の生命を尊重する意識を育てていきたい。

低学年による学習が主なので、準備や世話が、教師主導になることが多い。また、夏休みを挟むため、子どもや保護者に協力を呼び掛けても、なかなか協力を得られないことが多い。ただ、子どもたち自身が育てるという経験があまりないので、収穫の喜びは格別のものようであった。命の大切さを学ぶ意味でも有効な学習である。これからも継続して学習を続けさせていきたい。

本年度はコロナの影響で、1学期の様々な体験活動がほとんどできませんでした。
令和3年度は、本年度より充実すると思います。

子どもたちが向かう将来における職業を含む社会構造は大きく変わろうとしている。そんな中、キャリア教育の重要性が叫ばれているが、改めて身近な職業である農業についても本校のキャリア教育の中に、取り入れていく必要はあると考える。今後、検討していきたい。

本地域は、家族が農業の仕事をしていたり、周辺の畑などで働いている方を見かけたりする機会が多いですが、自分たちの食べているものがどのくらいの時間と手間をかけて生産されているものなのかを実際に体験を通して知ることが大事であると思います。

また、自然を相手にする厳しさや収穫の喜びを感じることで、心の成長にもつながると考えています。

しかし、学校は、体験学習以外にも教育課程で決められている内容を実施していかなければならないので、計画的に行っていないと時間の確保が難しく、他機関との連携をしっかりとっていかないと目的も見失いがちになってしまうことが課題となります。